

## 都市ガスの完全自由化後における新規事業者へのスイッチングの問題

帝京大学経済学部経済学科専任講師

橋本 悟

e-mail アドレス : s-hashimoto@main.teikyo-u.ac.jp

### 要旨

天然ガス小売部門の完全自由化においては、先行する欧州では、新規事業者への十分なスイッチングが起こっていないという問題が生じている。そこで本稿では、先行する欧州の状況をもとに、日本の都市ガス市場の完全自由化を行うにあたって、市場の競争を促進させて新規事業者へのスイッチングを活発にするための方策について検討する。

欧州の主要国では完全自由化が行われて 5 年以上が経過したが、既存事業者から新規事業者へのスイッチングが十分に起こっていない。この理由として、第 1 に競争環境がフェアでないこと、第 2 にフェアな競争環境のもとで実際に競争を行ったとしても、価格やサービス面で既存事業者が優位になることである。したがって、スイッチングを高めるためにはフェアな競争環境をつくり、そのフェアな競争のもとで新規事業者が優位性を持つ必要がある。

そこで、本稿ではフェアな競争環境を整備するための手順について述べ、次に、そのフェアな環境の下で新規事業者が優位性を持つための戦略についての検討を行った。

フェアな競争環境整備の手順として、垂直統合の解消（アンバンドリング）、参入障壁の撤廃、安定供給への信頼性の確保、そしてスイッチングコストの解消を行うことである。その後、フェアな市場競争の中で、新規事業者は、既存事業者よりも優位性を持たせるために、低価格戦略に加えて商品の差別化戦略などを行う必要がある。これによって、新規事業者へのスイッチングが増加するものと思われる。

しかしながら、日本は欧米と比較してパイプラインネットワークが十分でないこと、欧州と異なり隣国の既存事業者による新規参入が期待できないことから、フェアな競争環境を実現しても、十分な競争が起こらない可能性があることなどが課題として浮上した。

**Keyword:** 都市ガス、完全自由化、安定供給、競争原理、商品の差別化